

2020年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 布花原 明子	職名 教授	学位 看護学(修士)
-----------	-------	------------

研究分野	研究内容のキーワード
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学教育(授業及び実習方法) 保健師のキャリア形成 公衆衛生看護活動に関するコンサルテーション

研究課題
地域の健康課題の解決をめざす公衆衛生看護活動のあり方や、その発展要因との関連、支援課題について考察する。 公衆衛生看護活動についてコンサルテーションの観点から実践的に考察する。

担当授業科目
<2年次> 公衆衛生看護方法論Ⅰ、公衆衛生看護方法論Ⅱ <4年次> 地区活動論演習 公衆衛生看護技術演習 看護総合演習 公衆衛生看護学実習 看護総合実習

授業を行う上で工夫した事項(※ 助教については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【公衆衛生看護方法論Ⅰ】 2年生前期保健師必修・看護師選択科目である。遠隔授業で基礎的な理論や知識を具体的に理解し考えることができるよう、教材動画コンテンツを検索しメディア教材を利用して、講義、視聴、ワークを取り入れながら100分の授業時間の運用を工夫した。また、学生から送信されるチャットでの質問コメントなどに対し、タイムリーな回答を心掛けた。
授業科目名【公衆衛生看護方法論Ⅱ】 2年生後期保健師必修・看護師選択科目である。後期からはGoogle クラスルームの機能が向上したことにより、グループワークなどのプレミアム機能を最大限に活用し、授業では学生が主体的に参加、発言できる場を提供するよう工夫した。遠隔授業では学生の反応を直に感じにくいいため、授業の途中で声かけに加え、最後に質問時間を設け、個々の理解に応じて早期に疑問が解決できるように努めた。
授業科目名【4年次集中講義：公衆衛生看護技術演習・地区活動論演習】 保健師課程4年生前期の必修科目である。公衆衛生看護学実習の開始前に、実習地域の地域診を行う「地区活動論演習」と、実習地域の健康課題の解決のための健康教育技術演習及び家庭訪問技術演習「公衆衛生看護技術演習」を連動させて計画した。特に、学生が遠隔授業でも実施可能な技術内容と事例選定を再検討し、授業方法を検討した。また、授業中だけでは十分な理解が困難な学生に対しては、授業外の時間での補講を行い、到達レベルを対面授業と同等程度に達成できるよう努めた。
授業科目名【看護総合演習・看護総合実習】 4年次前期科目である。演習前半では、学生が関心をもつ実習テーマに関して、事前に指導保健師から施設の情報を得て学生に提示し、企業特性を理解して実習テーマと実習目標を説明できるよう留意した。テーマに関する情報を収集し実習計画を立案できるよう指導し、現場との遠隔指導を取り入れて学内実習を実施した。実習後には実習指導者からいただいたコメントや説明内容などを再度振り返り、文献を活用しながら情報の解釈を深め、各学生がテーマに沿って考察しレポートを作成できるよう心掛けた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本公衆衛生学会	一般会員	1994年4月～現在に至る
日本看護科学学会	〃	2001年3月～ 〃
日本地域看護学会	〃	2001年4月～ 〃
日本看護教育学学会	〃	2003年4月～ 〃
日本公衆衛生看護学会	〃	2014年4月～ 〃

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会)				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(2) 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
北九州市保健所運営協議会	委員	2009年4月～現在に至る
認定看護管理者教育課程ファーストレベル	講師	2012年4月～現在に至る
北九州市介護保険認定審査会	審査委員	2017年4月～現在に至る
北九州市社会福祉法人審査会	審査委員	2020年4月～現在に至る
北九州市八幡西区地域保健係業務改善及び「北九州市保健福祉研究発表論文」支援（優秀賞1題、入選1題）	コンサルタント	2018年4月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

<p>1. 学生募集委員会</p> <p>1) 高校訪問については前年度の実績をふまえ、今年度の拡大対象校を選定し計画した。しかし、COVID-19感染症による影響により今年度の高校訪問実績は0となった。</p> <p>2) 高校模擬授業および進路ガイダンスの学科実績は0である。</p> <p>3) Zoomでのオープンキャンパスが決定された。担当教員及び参加学生の体制を見直し、対面での実施に近い内容を工夫し参加者の満足度を得られるよう工夫した。初めてのZoom企画であったため、毎回内容を改善し参加者の満足度を高めるよう配慮した。</p> <p>4) 入試説明会をはじめ、学生募集に係る本学のPR（パンフレット等）などを作成した。</p> <p>5) 今年度は、在学生による高校訪問の活動実績は0である。</p> <p>2. 2年生アドバイザー</p> <p>アドバイザー責任者として、アドバイザー活動方針を設定し、4名のアドバイザー体制のもと年間活動計画を作成、実施した。</p> <p>1) 学習支援</p> <p>国家試験対策の一環として業者模試の実施（9月）。その後、テーマ「看護師国家試験の動向と2年次の国家試験対策」について2年生を対象に研修を実施（1コマ）。その後、模試問題のやり直し学習とポートフォリオファイルの作成支援を行った。</p> <p>2) 保護者懇談会</p> <p>リモートで保護者懇談会を開催した。企画、準備、当日の説明及び運用を行い、参加者アンケートを実施した。</p> <p>3) 生活支援</p> <p>新年度及び後期開始時に個別面談を行い学生個々の状況を把握し、履修計画や生活指導等を行った。成績不良者や留年確定者へは学科長や実習指導者と連携し随時、面談を実施した。同時に保護者対応を実施した。</p> <p>4) コロナ禍における緊急事態宣言期間中の健康調査</p> <p>遠隔授業を終了した春休み開始時点にアンケート調査を行い、学生の生活習慣と心身の健康状態を把握した。全体の傾向を把握し3年次のアドバイザー活動の課題を検討する目的と、学生自身に生活を振り返り4月からの対面授業開始に向けた春休みの過ごし方を考える契機とする目的で行った。結果は保護者へも郵送し、春休み期間中の過ごし方への家庭からの支援を依頼した。</p> <p>5) 成績不良者への個別対応</p> <p>本試験で必修科目1科目以上不可となった学生へ、個別に連絡を取り、追再試験に向けて学習指導</p>
--

を行った。その結果、追再試験で留年確定者については、学科長、学科教務、各アドバイザーと連携し本人と保護者との個別面談を行い進路に関する指導を行った。

3. 保健師国家試験対策

保健師課程 4 年生を対象に模試を 3 回実施し、結果に基づき公衆衛生看護学担当教員と対策を講じた。強化学習を実施し、また国家試験直前まで個別に質問等に対応した。(2020 年度保健師国家試験合格率 100.0%)。